

庄原市行政評価シート

令和5年度評価

事務事業名 庄原市芸備線利用助成金(芸備線グループ利用助成金)

所管	生活福祉		部	地域交通		課
実施期間	令和	2	年度～			年度 (終期設定が無い場合は終期を空白)
予算科目	会計	款	項	目	事業	
	01	02	01	13	0402	
	一般会計	総務費	総務管理費	生活交通対策費	JR利用促進対策事業	
対象者	市民を含む4人以上のグループ			対象者数など		
根拠法令等	庄原市芸備線利用助成金交付要綱					
HPアドレス	https://www.city.shobara.hiroshima.jp/main/life/traffic/post_1473.html					
実施目的	芸備線の利用促進を図るため、市内の駅から芸備線を利用する市民グループに対し、予算の範囲内で庄原市芸備線利用助成金を交付する。					
事務事業の概要	<p>制度の概要</p> <p>(1)助成対象団体: 市内を含む4人以上のグループ</p> <p>(2)助成対象区間: ①三次駅から備中神代駅までの芸備線の区間 ②木次駅から備後落合駅までの木次線の区間 ③新見駅から備中神代駅までの伯備線の区間 (この区間を越えて利用した時は、この区間分を助成対象とする)</p> <p>(3)助成対象経費: 市内の駅を出発又は到着駅とする片道又は往復の普通旅客運賃</p> <p>(4)助成額: 助成対象経費の2/3の額(上限3万円・100円未満切り捨て)</p>					
	年度別実績概要	令和2年度	支出額 38,400円 利用グループ数 7件 利用者数 52人	令和3年度	支出額 108,000円 利用グループ数 19件 利用者数 276人	令和4年度

実績指標

(単位:千円)

項目		内容	R2	R3	R4	計
事業費 (インプット)	補助金	芸備線グループ利用助成金	39	108	221	368
						0
						0
		計	39	108	221	368
財源	国県支出金					0
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		39	108	221	368

指標名称		単位	基準値	R2	R3	R4	計
実績 (アウトプット)	1 支出額	円		38,400	108,000	220,300	366,700
	2						0
	3						0
成果 (アウトカム)	1 利用グループ数	団体		7	19	24	50
	2 利用者数	人		52	276	315	643
	3						0
備考							

事務事業名	庄原市芸備線利用助成金(芸備線グループ利用助成金)
-------	---------------------------

評価項目	所管課	市民意見	評価委員会	評価平均(上段)・分布(下3段)	
(評価は、A=1,B=0,C=△1とした平均値で、A,B+,B-,Cの5段階判定)				市民意見	評価委員会
優先度	B	A	B	0.5	0.0
A	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。			1	1
B	同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。			1	5
C	同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。			0	1
認知度	B	B	B	0.0	0.0
A	対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。			1	1
B	対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。			0	5
C	一部の者を除き、事業があることすら知られていない。			1	1
有効性	B	A	B	0.5	0.0
A	費用に対して、効果・成果が高い事業である。			1	1
B	費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。			1	5
C	費用に対して、効果・成果が低い事業である。			0	1
受益者満足度	A	-	B+	△ 1.0	0.4
※受益者： 市民を含む4人以上のグループ					
A	受益者(対象者)は、満足している事業内容である。			0	4
B	どちらともいえない。			0	2
C	受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか)			1	1
市民(納税者)納得度	B	A	B	1.0	0.1
A	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。			1	2
B	どちらともいえない。			0	4
C	目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。			0	1
代替性	B	A	B+	0.5	0.4
A	収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。			1	4
B	民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。			1	2
C	市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。			0	1
まちづくり基本条例適合性	B	A	A	0.5	1.0
A	市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。			1	6
B	市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。			1	0
C	条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。			0	0

所管課評価	現行どおり
視点	<p>芸備線の利用促進を目的に4人以上の市民グループへ運賃助成を行っている。令和3年度から対象団体について5人から4人へ変更した。このことで、より利用しやすい環境としたことから、利用件数は前年度から微増であるが、支出額も増えている。老人クラブや自治振興区が木次駅、亀嵩駅までの長距離を乗車された実績が例年より多くあった。</p> <p>また、沿線外(高野・比和・総領)の地域からの利用や相談が寄せられており、継続して助成することにより、JR芸備線・木次線利用促進につなげていく。</p>
課題	<p>利用団体の大半が、沿線区域の方の利用である。対象団体の利用者についても、5人から4人に変更し、この助成金を利用する枠を広げたことから、企業や地元団体等を通じて広く周知することで、沿線外の方も含め、多くの方に乗車してもらうことにより、芸備線の良さを知ってもらう必要がある。</p>

事務事業名 | 庄原市芸備線利用助成金(芸備線グループ利用助成金)

市民意見 (プラモニ) ※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。)

分布	現行どおり	拡充	縮小	終了		総回答数
	0	2	0	0		2
主な意見	<p>【拡充】 ・JR西日本が国に再構築協議会の設置要請を行い、今後、存続か否かの協議が始まるとのこと。採算重視での検討となることが予想され、自治体も本腰で利用促進に向けた取り組みをされると思うが、付け焼刃的なことは如何なものか。また、将来にわたって、補助金等を負担し続けることに対しても懸念があります。廃線となれば、過疎化はますます加速することから、何としても存続となるよう願っています。市内の観光・地域資源を生かした取り組み、宴会列車の企画や各駅前周辺の魅力ある施設の誘致、通勤・出張にJR利用の呼びかけ等、多方面からの働きかけの積み重ねで、少しでも乗客数アップとなればと思っています。</p>					

事務事業名 | 庄原市芸備線利用助成金(芸備線グループ利用助成金)

行政評価委員会評価 | **拡充** | ※行政評価委員会の摘録(会議内容)はホームページに掲載しています。

総括意見
 JR芸備線は沿線住民の通勤・通学に必要な交通手段であり、今後も存続させる必要がある。先般、備後庄原駅から備中神代駅区間についてJR西日本より国に対して再構築協議会の設置が要請され、今後、同区間の在り方に関する議論が進められるものと予想される。こうした中、本事業はJR芸備線の利用を促進する効果を有しており、今後も事業継続されたい。その上で、日常的な利用もさることながら、周辺地域のイベント等と本事業や他の事業とを連結させ、沿線地域に限らず市内外からの利用も促進されるよう、広報手段の工夫と関連事業の予算拡充を検討されたい。



※委員会における最終的な評価として総括したもので、分布の多い評価を優先するものではありません。

分布	現行どおり	拡充	縮小	終了
	5	2	0	0

各委員の意見

【現行どおり】

- ① 芸備線の存続のため、いろいろな方法で事業を進める必要がある。その一環として、本事業は効果があると思えるが、存続のためには多くの利用者数が必要であるため、今後も継続されたい。そうした中、10月3日には備後庄原駅から新見市備中神代駅までの区間について、JR西日本は路線の存続やバスへの転換などを議論する協議会の設置を国に申請した。そのことで今後議論が進められるが、少しでも本事業も含めた利用者の増加を促し、存続につなげることを期待したい。
- ③ ・目標値と実績の比較資料があれば、成果効果の検討材料となると思われる。
 ・申請先を駅周辺の民間事業者や公的機関に委託してはどうか？
 ・本事業実績値の活用はされますか？
- ⑤ 最近、ニュースでも芸備線の一部区間が取り上げられ、国へ再構築協議会の設置申請がされたと聞く。本事業も芸備線の利用促進や存続のためのアピールになればと考え、継続をお願いしたい。今後に向けて沿線周辺の魅力あるまちづくりに繋がる取り組みや他の事業との連携で市内外からの集客に期待する。
- ⑥ この事業は芸備線の利用促進が目的ではあるが、グループ対象で主には観光や遠足での利用になっており利用する世代が限られているように思う。鉄道を愛する市民団体等へ徐々に移行されることを望む。
 学生の通学の定期代が高額で助成金がないこと、区間によっては往復できないなどの声を聞く。利用しやすいダイヤの検討や通学通勤に対する助成金など検討をお願いしたい。
- ⑦ 芸備線の存続は庄原市民にとって不可欠であり、その手段の一つとしての助成金の交付と考える。市民に広く芸備線の利用を促進し、危機感を共有するためにも、本来は拡充すべき事業であると思う。現在の芸備線の利用状況や、この助成金の申請実績から現行のまま、広報の手段の工夫等、また芸備線利用促進のための他の事業とも連携されたい事業である。

【拡充】

- ② 芸備線の利用促進という意味では、あった方がよい事業だと思う。しかし、補助金頼みでは限界があるので、クラウドファンディングや観光等の補助金の取得等の将来の事業化するための人材育成やきっかけとなる事業に予算を拡充すべきと思う。
- ④ 芸備線、特に庄原～落合間、落合～東城間の利用者のほとんどが学生である。芸備線が廃止になると親への負担は、ずいぶんかかってくるのではないかと。落合駅で多路線の列車がみれるというのは、めずらしいのではないかと。この路線にもっと観光客を呼ぶことはできないものだろうか。

今後の事業実施の方向性

詳細	
備考	